

・小川原湖沼群 ・ ・ ・ 東北町

43・34・26N 144・20・47E



1. ハクチョウ類飛来状況 (20011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	738	747	1,456	1,865	910	1,143
コハクチョウ	43	37	43	48	118	57
類合計	781	784	1,499	1,913	1,028	1,201

2. 選定地の状況

小川原湖沼群は、青森県の太平洋側に位置する。小川原湖、鷹架沼、尾駁沼など7つの湖沼がある。周辺の草湿原も含め、水鳥類をはじめ多くの種類の渡りの中継地になっている。また、青森県内ではハクチョウ類やカモ類の最大の越冬地になっている。

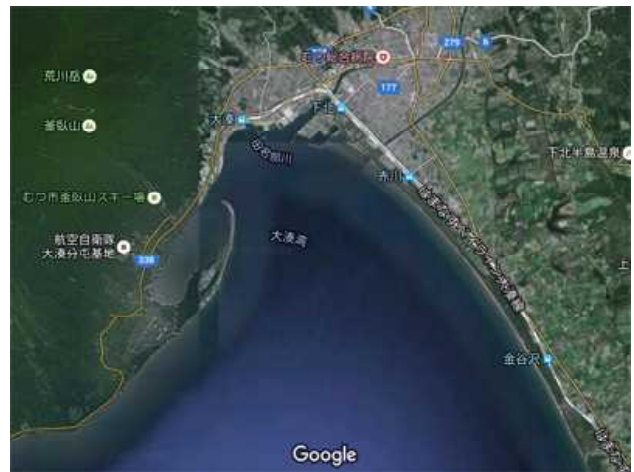
10月上旬にハクチョウ類の飛来が始まり、しだいに羽数を増していくが、まもなく移動して行く。越冬時期は、ほとんどがオオハクチョウである。3月上旬から移動して来た群れが見られ、湖沼や周辺の田圃で過ごすようになる。3月中には移動を終えるが、一部ではオオハクチョウが4月上旬まで見られる。

小川原湖は「小川原湖のハクチョウ」として青森県の天然記念物に指定されているが、尾駁沼とともに保護区ではないことから、今後、保護区指定に向けた取り組みが必要である。

(選定協力員 阿部 誠一)

・大湊湾・・・むつ市

41・14・24N 141・8・2E



大湊湾



餌をもらいに上がって来る

1. ハクチョウ類飛来状況 (20011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	260	172	213	177	109	186
コハクチョウ	0	0	0	0	0	0
類合計	260	172	213	177	109	84

2. 選定地の状況

大湊湾は、本州最北の陸奥湾北部に位置する。比較的遠浅の海岸が続き、「芦崎」という砂嘴がある。古くからハクチョウの越冬地と知られ、「大湊湾の白鳥」として青森県の天然記念物に指定されている。

10月中旬頃から少数が飛来するが、すぐに移動して行く。越冬する群れの飛来は11月中旬頃からである。おもに、「芦崎」の内湾や田名部川河口部で過ごす。3月上旬から移動が始まり、中旬にはほとんど飛去する。

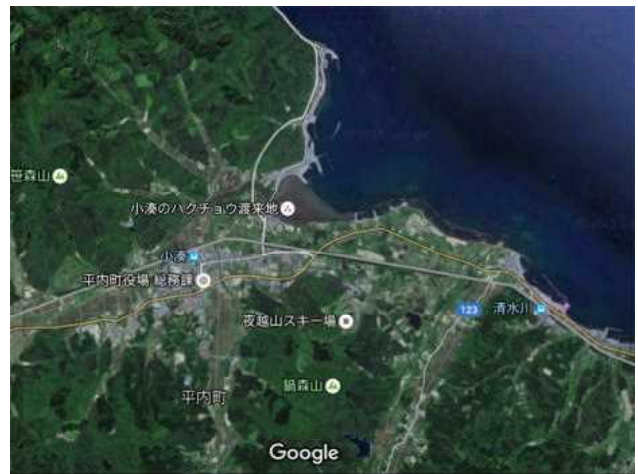
越冬するのはオオハクチョウである。コハクチョウは、春と秋の渡りの時期に1～数羽が時折立ち寄るに過ぎない。かつては500羽以上の越冬記録もあったが、最近では200羽前後となっている。大湊湾から西側に続く海岸では約100羽のオオハクチョウが越冬している。

(選定協力員 阿部 誠一)

・浅所海岸・・・平内町

40・56・17N

140・58・23E



浅所海岸の様子－1



浅所海岸の様子－2

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	84	207	235	72	149	149
コハクチョウ	0	0	0	0	0	0
類合計	84	207	235	72	149	149

2. 選定地の状況

青森県陸奥湾の南部中央に突き出した夏泊半島の東側に位置する。汐立川河口に広がる遠浅の海岸がおもな飛来地となるが、半島の東部海岸一帯と合わせ「小湊のハクチョウ及びその飛来地」として国の特別天然記念物に指定されている。古くからハクチョウの飛来地として有名である。

10月中旬頃から飛来があるが、すぐに移動して行く。11月中旬頃からしだいに羽数を増して越冬するようになる。そのほとんどはオオハクチョウで、稀にコハクチョウが混じることがある。かつては600羽以上を記録していたが、餌付け中止後は大きく減少した。3月になると渡りが始まり、下旬には飛去して行く。秋と春は、周辺の田圃に入って採食する群れが見られる。

ハクチョウの餌となるアマモ等の生育状況など海岸環境調査を行い、ハクチョウの保護へ向けての活動が行われている。

(選定協力員 阿部 誠一)

・間木堤 (20)・・・ おいらせ町

40・36・39N

141・23・58



堤の奥は結氷する



カモ類と一緒に過ごす

E

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	315	105	94	16	34	112
コハクチョウ	0	0	0	0	0	0
類合計	315	105	94	16	34	112

2. 選定地の状況

小川原湖沼群の南に位置し、おいらせ町の公園にある。かつては、農業用の溜池としての役割があったが、現在は整備され遊歩道で散策できる。

白鳥飛来地として、町内住民はもちろんのこと、八戸市や三沢市など周辺の人々が多く訪れる場所になっている。

10月上旬から飛来が始まるが、多くはすぐに移動して行く。その後、越冬する群れが次第に数を増してくる。かつては600羽以上を記録したが、現在は200羽位となっている。渡りの時期は、ここをねぐらにして、周辺の田圃などで採食する群れもある。

周辺一帯は鳥獣保護区に指定されている。また、公園の一部として利用されていることから、狩猟圧や急激な環境変化は無いものと思われる。

(選定協力員 阿部 誠一)

・平川(藤崎) …藤崎町

40・38・56N 140・29・44E



白鳥ふれあい広場



こーやまるくん

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	62	133	52	52	96	79
コハクチョウ	0	179	0	0	3	36
類合計	62	312	52	52	99	115

2. 選定地の状況

青森県西部の岩木山の東側に位置する藤崎町の平川が飛来地である。河川敷に、勾配のゆるやかな階段が岸辺まで続く「白鳥ふれあい広場」として整備されていて、間近で観察することができる。土手に建つ白鳥観察舎「こーやまるくん」は観察を楽しむには最適である。周辺の弘前市や五所川原市などからも訪れる人が多く、津軽地域では有名な飛来地となっている。

10月から飛来するが、越冬する群れは11月になってからである。ほとんどはオオハクチョウであるが、時にはコハクチョウも混じることがある。かつては、300羽を超えて飛来していたが、現在は減少し100羽位となっている。渡りの時期は、川をめぐらし周辺の田圃などで採食する群れもある。

川とその周辺は鳥獣保護区となっている。また、「藤崎のハクチョウ」として県の天然記念物に指定されている。

(選定協力員 阿部 誠一)